

R4 筑波サーキット (茨城県) エントリー台数 27台

クラス CBR250R Dream Cup

10/9 (土) 公式予選 1位 P.P (タイム:1'08"186)

チーム S-SPORTS・MFD・SLY

晴れ 決勝レース 1位(12周) 最年少優勝

ライダー #95 齊藤太陽

## ■ 齊藤太陽がロードレースデビューウィン!

2021筑波ロードレース選手権シリーズ第4戦。齊藤太陽・12歳が初めてのロードレースに挑み、見事にP.P (ポールポジション) からデビューウィンを飾った。

10月27日に13歳の誕生日を迎える太陽は山梨県出身。4歳でPWに乗り始め、ミニバイクで腕を磨いてきた。ひたむきに練習に取り組む姿と素質に注目し、生形はS-SPORTSの若手育成プロジェクトとして太陽のバックアップをはじめた。ロードレースデビューに向けては、中学生になった今年5月から250ccのマシンを使ってスポーツランドやまなしを走りこみ、10月の最終戦に備えた。筑波サーキットは4回目の練習走行で1分09秒台に突入。レース前日の練習走行で1分08秒9と、着実にタイムアップしていた。

<公式予選>秋晴れのドライコンディション。公式予選では単独走行で周回を重ねる。セッション終盤にうまくスリップストリームを使って1分08秒186をたたき出し、P.Pを獲得。2番手を0秒722も引き離す好タイムであった。

<決勝レース>12周で争われた決勝。好スタートを切った太陽だったが、予選2番手、3番手の選手も好ダッシュを決め、前に出ていく。オープニングラップから抜きつ抜かれつを繰り返していると、後方からもう1台加わり、4台のトップ争いとなる。この接近戦の中で太陽は一度3番手に下がり、ライバルの走りを確認していた。そしてトップ争いが3台に絞られたレース終盤、太陽はラストスパートをかける。1コーナーでさされても必ずコントロールラインはトップで通過することを心掛け、最終ラップをトップで迎える。1コーナーでインから仕掛けてくる選手を抑えて第2ヘアピンを立ち上がり、最後の勝負所でもある最終コーナーへ。ライバルもピタリとついてくるが、太陽が逃げ切ってチェッカー。もつれにもつれた三つ巴のバトルを制した。

### <齊藤太陽コメント>

「ロードレースデビュー戦で優勝できて、すごくうれしいです。激しいバトルでしたが冷静に戦うことができたのも、アドバイスをくださったり支えてくださった皆さんのおかげです。夢はMotoGPでチャンピオンになることなので、その目標に向かって、もっと頑張っていくので、応援よろしくお願いたします」

### <生形秀之S-SPORTS代表コメント>

「まずは、多くの方のご協力で太陽のロードレースデビューを果たす事ができました。本当にありがとうございます。そして、レベルの高い争いの中でのポールtoウィンと最高の結果を出した太陽を褒めたいと思います。ただ、これはあくまでもスタートに過ぎないので気を引き締め、今後のレースに臨んでほしいと思います。今後とも齊藤太陽へのご支援、ご声援宜しくお願致します」

筑波ロードレース選手権 CBR Dream Cup  
CBR250R Dream CUPクラス 最年少優勝



### PARTNERS

